

令和 7 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立東高等学校

調査全体の日程

調 査 日： 令和8年3月11日

調査対象校：横浜市立東高等学校

調査チーム：学校運営協議会

記録等担当者 横浜市立東高等学校 副校長 藤田恵一郎

1 第4期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□総合的な探究の時間の取組

教職員の自己評価、生徒の評価共に昨年度に比べ「十分/おおむね実現できている」の割合が高まっている。教職員も生徒も、社会全体の流れとして、主体的に考え、課題解決に向けて取り組む力が必要とされていることを理解している。

□魅力ある学びの創出に向けた取組

「主体的・対話的で深い学び」や ICT を効果的に活用した取組を意識して、授業実践している様子が教職員の高評価から感じられる。生徒の評価では、更にそのような取組を充実させてほしいという思いも感じる。教職員は生徒からの授業評価を生かし、授業改善に更に取り組んでほしい。

□多様化する生徒への支援

教職員は、生徒一人ひとりの様子を見守り、必要に応じてその支援について、組織的に対応している様子が教職員の自己評価から窺える。一方で、生徒の評価との隔たりを感じるところもあり、生徒が抱える課題の早期発見と対応について、今後更に組織的な取組を期待している。

2 教育活動の状況

□教科指導の状況について

生徒の評価や教職員の自己評価から、どの教科についても「主体的・対話的で深い学び」実践し、観点別評価により、生徒の振り返りと教員の授業改善を実施している様子が見られる。ICTの活用については、年々、生徒の関心が高まっており、更に授業中の活用を進めてほしい。

□進路指導の状況について

模試などを計画的に実施し、その結果から生徒自身が現状を認識できている様子である。また、進路ガイダンスや進路相談を充実させている。進路指導における教職員の知識や学びを深め、生徒一人ひとりの進路について、より個に応じた丁寧な指導を目指してほしい。

3 学校経営の状況

□組織運営及び教職員研修の状況について

働き方改革では、改善傾向にあり、教職員が効率的に校務を行う意識が非常に高まっている。部活動ガイドラインの遵守、フレックスや振替取得の取組などを通じて教職員が働きやすい環境作りが進んでいる。円滑な情報共有のもと組織的な取組が行われていると共に教職員の研究・研修の機会が充実している。

□学校に関する情報公開の状況について

インスタグラムの投稿やホームページの更新など、情報発信が積極的かつ迅速に行われていて、東高校や生徒たちの様子を知ることができる。中学生や地域の方々にも東高校の雰囲気が伝わるようになっている。東高校の広報活動として、今後も続けてほしい。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

いじめの未然防止や早期発見に向けた取組について、全教職員が高い意識をもって取り組んでいる。情報共有が迅速に行われていて、いじめの解決に向けた取組が組織的に行われている。

5 学校関係者評価 提言（380字以内）

- ・メタバースセンターの利用頻度を上げてほしい。せっかく設備があるので、次年度以降も国際交流のプログラムがあるのならさらに活用していいのではないかなと思う。
- ・盗難については盗った側の教育も含めてしっかりと対応してほしい。PTAでも見守りカメラの導入を検討しているので、学校側も防犯カメラの増設などを検討してもらえないだろうか。校内を電子マネー化して現金の必要性がなくなれば盗難防止にもなるのではないかなと思う。
- ・地域の自治会としては、ダンス部の活動をはじめとして高校生に協力してもらって本当に助かっている。盆踊りの時期は設営から手伝ってくれる生徒もいるので今後も継続して協力してもらいたい。
- ・花壇の手入れについて、他校ではPTAで活動しているケースもあるので今後検討してほしい。